


創造性に富む研究で、未来に貢献する若手研究者を顕彰する
第15回（2026年度）三島海雲学術賞の決定

公益財団法人 三島海雲記念財団(理事長 羽田 正、所在地 東京都渋谷区)は、厳正なる審査の結果、**第15回三島海雲学術賞の受賞者3名**を決定いたしましたので、お知らせいたします。


本賞は、自然科学及び人文科学分野において、傑出した研究業績を有する優れた**若手研究者(45歳未満)**を顕彰する賞です。

贈呈式は7月10日に東京會館(東京都千代田区)で開催し、受賞者には**賞状と副賞300万円**が贈られます。


【自然科学分野】 (食の科学)

	尾畑 佑樹 氏 <small>おばた ゆうき</small>	39歳
	テキサス大学 サウスウェスタンメディカルセンター	アシスタントプロフェッサー(PI)
	「食由来シグナルが腸管神経回路を制御する仕組みの解明」 食物繊維の発酵産物である酪酸の大腸での効能を発見し、食・腸内細菌・免疫の共生メカニズムの一端を解明した。また、腸の神経細胞が食餌成分を認識する受容体AHRを持ち、その発現が腸内細菌によって増強されることを示した。さらに、腸の多様な細胞の概日リズムを可視化するイメージング技術を開発した。	

【自然科学分野】 (食の科学)

	米代 武司 氏 <small>よねしろ たけし</small>	41歳
	東北大学大学院 医学系研究科	准教授
	「褐色脂肪組織の機能制御における食品成分の多様な作用機序の解明と生活習慣病予防への応用」 褐色細胞の活性化が体脂肪量を減少することを実証し、カプシエイトなどの摂取が褐色脂肪の活性化に有効であり、分岐鎖アミノ酸が褐色脂肪の熱産生に不可欠であることを明らかにした。また、受精前の親の環境曝露情報が子に伝搬して褐色脂肪を活性化させ肥満リスクを低減することを発見した。	

【人文科学分野】 (アジアに関する人文社会科学)

	パッタジット タンシンマンコン 氏	37歳
	東京大学 東洋文化研究所	准教授
	「タイ外交史を読み直すー「竹の外交論」からの脱却」 タイ外交の伝統とされてきた「竹の外交論」を、多言語資料に基づく実証研究によって再検討し、多様なアクターが主体的に外交に対応していたことを明らかにした。さらに、外交判断の背景には広く共有された「小国意識」が存在し、それが歴史認識やナショナリズムにも影響したことを示した。	

(所属、年齢は2026年4月1日現在)

「カルピス」生みの親 三島海雲



1878年(明治11年)大阪府いまの箕面市の寺に生まれた三島海雲は西本願寺文学寮そして仏教大学に学び、24歳の時、青雲の志を抱いて中国大陸に渡ったのち、やがて仕事で訪れた内モンゴルの地で、遊牧民の活力源と言われる**酸乳(発酵乳)**に出会いました。

1915年(大正4年)に帰国後、自らの内モンゴルでの健康体験をもとに、乳酸菌を活用した食品の事業化に取り組み、試行錯誤を繰り返したのち1919年(大正8年)7月7日七夕の日に、**日本初の乳酸菌飲料「カルピス」**の発売に漕ぎつけます。「カル」はカルシウム、「ピス」はおいしさを表すサンスクリット語から自身が命名。水玉のデザインは天の川、天体の縮図を形どったものです。

「カルピス」を日本の代表する飲み物に育て、長く経営の第一線にあった三島海雲でしたが、幾多の試練を乗り越えることができたのは、「私欲を忘れ公益に資する」「国利民福」に代表される独自の世界観と信念だったとも言えます。1962年(昭和37年)84歳のときに、「私が今日あるのは、先輩、友人、知己、さらには国民大衆の方々の惜しみないご声援によるところのものであると思った。したがって私の得られた財物は、ひとり三島海雲の私するものはない。あげて社会にお返しすべきものである。そして、お返しする方法として、財団を設立することが望ましい。」と考え、全私財を投じ三島海雲記念財団を設立いたしました。

<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人 三島海雲記念財団

(担当：青山)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-6-10 ジラッフアビル

Tel: 03 (5422) 9898

e-mail: mishimak15@mishima-kaiun.or.jp

URL: <https://www.mishima-kaiun.or.jp>